

子どもが図書館を知り親しむための資料の検討

—児童教育における図書館利用に関する資料選択の支援として—

村主千賀*

1. はじめに

2017年制作の「ニューヨーク公共図書館：エクス・リブリス」¹⁾が2019年日本で公開され話題となった。多様な活動、図書館サービスが映し出され、地域や生活に根ざした公共図書館のあり方に多くの図書館関係者が感銘を受けた。社会的・文化的背景や運営母体など日本のそれとは比べるには隔たりは大きい、そもそも、日本において、大学における司書の養成、図書館情報学教育は、第二次世界大戦後に米国の影響を強く受けて成立したものである。したがって、「司書としての基礎的な知識と技術」、「図書館サービスの本質」に関しては彼らと共通していると言ってよいだろう。どれほど置かれている状況が異なろうと、ニューヨーク公共図書館のサービスのあり方について共感し、「別物」ではなく、あるべき姿として受け止めることができるはずである。また専門職として求められる司書の能力とパフォーマンスは、(発揮する場所の有無は別として) 変わらないであろう。

では、利用者はどうであろう。映画の中では子どもも大人も、マイノリティーも、サービスコミュニティに属する多様な人が図書館を活用している。読書にしろ、調べものにしろ、文化事業にしろ、それぞれのニーズにあわせて、彼らの生活の中に図書館が息づいている。生活の中に図書館があり、街の構成要素として根付いていることが見て取れる。

筆者は図書館が描かれる絵本について継続研究を行ってきているが、外国(米国)の絵本と日本原作の絵本の違いに気が付く。利用者の描かれ方についていうと、多くの子どもが一堂に会しているようなシーンでは、肌の色、顔つき、目の色、髪の色が異なる子ども、車いすの子どもらがまんべんなく描かれる。そのことによって、図書館はだれもが公平に平等に利用できることを一目で、直感的に表している。

日本において、多文化時代と言われる現代、外国人の存在は特別なものでなくなっていくはずであり、また障がいのある利用者へのサービスも法制度を根拠に保障されている。図書館はそれらのことを受け止め、運営とサービスに具現化していくよう司書は教育を受ける。利用者(潜在的な利用者も含む)には、専門家としての司書が志と知識と技術をもって図書館に存在することを、彼らによって選び集められた数々の資料、情報資源があることをまずは知ってもらうことから始めなければなるまい。

図書館へのアクセサビリティ、ユーザビリティを考えると、公共図書館も学校図書館も館ごとの差が大きい。公共図書館の児童サービスにせよ、学校図書館にせよまず、身近に図書館があって、接する機会に恵まれているかという点において、大きな格差がある。山本の報告によれば学校図書館は地域格差がはげしく、また担当した司書教諭次第であることが見て取れるし²⁾、学校司書の配置状況に関する自治体格差を指摘する記事もある³⁾。学校図書館は、学校ごとに設置されているが、開館状況や活動には差があるのである。また公共図書館は、その立地条件によって、サービスコミュニティ内における距離の差、自治体によるコミュニティバスの運用の有無など、来館の難易度に地域差があることは否めない。『図書館をもっと身近に、暮らしの中に』と題されたシンポジウムで、図書館が増えれば貸出冊数が伸びるデータを根拠

* 東海学園大学人文学部 准教授

に、“図書館には潜在的な需要があり、まだまだ図書館を作る必要がある”、と糸賀は述べている⁴⁾。そのシンポジウムからおよそ10年後に『子どもの図書館』の文庫化にあたって寄せられた解説では、“執筆時に石井さんが望みを託した公立図書館は、数こそ増えはしたものの、図書館員の養成や処遇、サービスの質という点ではほとんど進展をみていない”と厳しく指摘されている。実際には、全国の多くの公共図書館では、図書館の機能強化にむけて様々な取り組みがなされているし⁵⁾、学校図書館については法改正もあり、学校司書の配置に言及され、学校司書モデルカリキュラムが発表されるなど、図書館側では改善のための動きがある⁶⁾。しかしながら、それらの改善や改革が利用者に浸透し、生活の中に取り込まれていかなければ、意味がない。利用者に図書館を知ってもらう事、親しみをもち、生活の中の一要素となるための多様な方策を講じるべきであろう。

前述のとおり、全国の誰もが気軽に利用できる身近な図書館があるわけではなく、来館するには、距離や物理的な制約はすぐに解消できるものではない。そこで、来館の有無、頻度にかかわらず、学校や家庭で、図書館を知る方法の一つとして、多様な資料利用に着目する。図書館を知ること、積極的な来館のモチベーションに結び付くことを期待する。特に、生活習慣が形作られていく途上の子どもたちに、図書館絵本はじめさまざまなガイドブック、知識の本は大きな力になるであろう。以下に、これまでの先行研究によって継続的に調査・収集を行った資料⁷⁾のうち図書館に関する子ども向けの便覧類やハンドブックを中心に検討する。

2. 図書館に関する知識の本

2.1 図書館に関する知識を伝える本のリスト

本研究で対象とするのは、もともと、図書館を描いている絵本を収集する中で、判型が大きくページ数が比較的少なく、絵・写真が多用されるものとして検索されたものである。絵本を抵抗なく手にする世代、できるだけ早い子どもの時期から、手に取るスタイルの本を求めたためである。それらは堅牢なつくりのハードカバーの見開きA4以上のものが大部分をしめ、造本は絵本とほとんど同じであるが、ストーリー性のあるお話の絵本とは内容や編集が異なる。親子で読む、友だちと読む、読み聞かせに用いることができるような造本であり、中には図書館で多くの子どもによる利用に耐えるよう「図書館用特別堅牢製本図書」とわざわざ造本について明記するものもあった。編集としては、便覧・ハンドブック、ワークブック、お話形式、絵探しの絵本タイプなどがあった(表1)。また、図書館の情報資源の多くを占める本について知るタイプの資料、情報収集についての解説の中で図書館に言及するものも、図書館に親しむという趣旨から表に反映した。今回、学校図書館司書、学校図書館司書教諭を対象とした図書館活動のアイデア、指導用の資料は省いたが、一部図書委員の児童生徒が活用できるものはリストに入れた。(なお、表1はページをまたぐと見づらいため文末に記載する。)

2.2 資料のタイプ：シリーズものと単行書

発行形態は単行書とシリーズものがあつた。単行書では、テーマをしぼってその目的に特化した内容で構成されていた。単行書では、「図書館の活用」を目標において構成されるもの、即ち調べ学習支援ツールとなるものと、図書館の歴史や成り立ちを解説し「図書館に関する知識」を身につけることを目的とするものがあつた。

シリーズものでは、シリーズ全体を通して図書館に関する知識を得ることをスタートとし、シリーズ最後に活用例をあげる構成のものが多かつた。表1の1～3に示した『図書館へいこう』のようにキャラクターが登場しお話形式で説明されるものと、6～9『図書館のすべてがわかる本』のような写真を用いて文章で詳細な説明をする便覧タイプがある。

シリーズもので表1の1～3に示した『図書館へいこう』を例にとると、第1巻から第3巻まで順を追って図書館に関する一般的な知識を得るところから、図書館の利用、課題解決へと導くものであった。3人の小学生のキャラクターが主人公となり、図書館に訪れる形式で構成される。第1巻で初めに図書館とはどのようなところか概要を示し、次に生活の中で見つけた問題解決として「困ったときは図書館で聞こう」と第1巻を踏まえた行動を示した。第3巻では主人公の学校での課題のために公共図書館を利用する。同じように巻ごとに段階を進めるタイプであっても『図書館のすべてがわかる本』は、お話形式ではなく、写真資料を見て説明を読む便覧タイプである。

お話タイプでは等身大の主人公と一緒に図書館利用を学ぶが、便覧タイプは図書館に関する知識を身につけるのに役立ち、対象学年も高学年以上である。また、『図書館のすべてがわかる本』の第1巻に注目すると、解説も写真資料も図書館司書課程の「図書・図書館史」の教材として用いることができるレベルの内容となっている。このような専門的な情報は図書館に対する知的探究心を育むことができると考えられる。このシリーズも第4巻では図書館の利用法、活用についてレクチャーするものとなっている。

また、表1の13～17の『わくわく図書館』はシリーズを冠しながら各巻それぞれが独立した編集で、表現に大きな差があった。第1巻は詩と絵からなる絵本、第2巻はポップアップ、第3巻、4巻は絵と説明でお話形式で図書館利用の説明、第5巻は図書館に関する知識として写真と説明の便覧というように、編集も表現も大きく異なるもので構成されていた。

そのほかに、シリーズものに属する特定の巻だけが図書館に関する資料というタイプがある。それは、表1の10『くらしをまもる・ささえる』の20巻で、校外学習として図書館を知るという設定や、26の『さがしてみよう！まちたんけん2』のように、町の中の公共施設を見学する設定など、社会の中に位置づけら得る図書館としての知識を伝達するものである。

他に『変わる！学校図書館』（全3巻）は学校図書館という館種だけを取り上げているが、構成としては図書館の歴史や役割といった知識全般、活用例が巻ごとに示されている。

2.3 資料の表現

2.3.1 資料に取り組むタイプ

それぞれの資料を詳細に見ていくと、お話や説明を「読む」「見る」ことで知識を得るものと、資料への「取組み」が必要な、ある種のインタラクティブ性をもたせたものがあることがわかった。以下にその特徴と利用法を記す。なお、「絵探し」とは“絵の中に、ちょっと見ただけではわからないように他のものの形を描き込んであるのを探し出す遊び。また、その絵”のことである⁸⁾。

▽ワークを遂行するタイプ

- ・書き込み型のワークシートが用意されているもの（表1中 4、5）

実際に本に直接書き込むことも可能であるが、著作権法で定める範囲内のコピーの許諾が明記されており図書館でも、学校でも、家庭でもワークシートを使うことができる。

- ・資料の貼り付けを求める作業を必要とするもの（表1中 27）

資料自身に直接貼りつけることを指示するワーク部分がある。個人所有であっても、その後の資料保存を考えると、実際には当該部分をコピーして利用することが望ましいであろう。

▽遊びの要素を取り入れたもの（表1中 18、19、21、26、29、(37、38)）

- ・クイズ：クイズの記載される箇所は、必ずしも本文中ではない。導入ページにクイズ、次ページにクイズの答え、あるいは、クイズの答えを明確に指示せず質問の投げかけだけの場合もある。

21『図書館のひみつ』のケースでは、カバーの折り返し部分に出題があり、図書館でこの形式

のものを利用する場合、装備の際に注意が必要である。

- ・絵探し（さがし絵ともいう）： クイズとして出題されているものを絵の中から探す形式。
例えば、図書館利用でマナー違反をしている人を閲覧コーナーの中から見つけ出すというものや、有名な童話の登場人物を探すなど、絵探しの手法による伝達内容は多岐にわたる。
- ・迷路： 町の様々な建物の中から図書館の場所を探す、図書館の中で目当てのものを経路を辿って探すという形式。

ワークシートタイプのものは、子どもが自分で楽しむことも、学校図書館、公共図書館などのレクチャーとして、一斉に行うことも可能である。図書館を知る、活用するという趣旨のものであるので、調べ学習の対象としての図書館ととらえて活用することも可能である。資料の貼り付けなどの作業は、図書館の見取り図などを実際に貼りつけると、「自分が訪れて観察した図書館」を資料に組み入れていく作業になる。そうすることで、「本の中の図書館」が自分の行ける図書館になる。図書館の活用術を身につけて調べ学習を支援するものとして、赤木かん子の『調べ学習基礎の基礎』では難易度（対応学年別）が示されており、それぞれの段階に応じた到達度の目安がわかる。オタマジャクシからカエルのキャラクターによって、理解の達成度と1年生から学年ごとの到達目標がわかるように示されている。また、上級の内容としては4年生で著作権に触れ、5年生以上でレポートの書き方、引用と引用文献、参考文献の書き方をレクチャーしている。ところで、これらの調べ学習本にあるような内容とレベルが、本当に小学校高学年から中学で完成されているならば、すでにこの段階で、大学での初年度教育の基礎演習での到達目標を達成していることになる。残念ながら筆者の担当する範囲で、基礎演習1の段階で、そこまで達成している学生は見当たらないのが現状であり、司書課程の受講者への聞き取りでも、そのような教育を学校図書館でうけた経験のある学生はいなかった。

絵探しやクイズ、迷路など遊びを取り入れた資料は、比較的低学年も楽しめるものがある。物語性はなくとも、その世界にはいって楽しむことができるものである。図書館の活用に視点を置いて図書分類などの理解が必要になってくると、遊びの要素があっても、中学年以上の利用を示唆している。対象学年については、資料本体に明示されていないことも多いが、出版者の発注用パンフレットなどで対象学年が確認できる。ただ、これらの対象学年はあくまで目安である。

クイズ形式のもので、表1中の37、38『図書館へ行こう：図書館クイズ』は、子どもが直接利用して楽しむというよりは、指導者、司書教諭が用いるアイデア集となっているが、もちろん子どもたちが自分たちで活用することも可能であるし、図書委員がイベントや図書館だよりを制作する助けとなろう。

指導者や図書委員が使うものとしては、表には反映していないが、ソフトカバーの大型本で『図書館クイズ1、2』⁹⁾のように、コピーしてそのまま図書館のイベントで用いることのできるようなアイデア集もある。これは、図書館についてのクイズではなく、スカベンジャーハントのような、図書館を利用して答えをさがすクイズのアイデア集である。そのほかにも、「図書館を利用させる」ためのイベントアイデア集などは多く出版されているが、堅牢な造本でなく、ソフトカバーで漢字に振り仮名がないなど、指導者が個人で利用することを前提としたものである。

2.3.2 便覧・ハンドブック形式の本で伝えられる内容

ワークや遊びを取り入れず、絵と写真によるビジュアルとそれに添えられた解説文から構成されるものは、「知識の本」であり、便覧、ハンドブックの類である。図書館の歴史に特化したもの、図書館の種類を説明するもの、現在の図書館のシステムやサービスを説明するものなど多岐にわたる。図書館の利用法を指南するものでは、図書館リテラシーとマナーについて触れるが、図書館とは何かを説明するものの中には、活用法まで言及しないものもある。前述の『図書館のすべてがわかる本』の第1巻や、『本と図書館

の歴史』など図書館史に触れるものは、写真資料や図解が豊富で詳細なものが多い。これらの内容は活用を目指したハンドブックやガイドとなるもの、図書館の役割やシステムを伝えるもの、図書館の歴史や成り立ちなど、直接利用にむすびつくわけではないが図書館に関する知識を伝えるものに大別できるであろう。その他には、より低学年向けに、図書館の利用を呼び掛けるようなもの、本や読書の魅力を伝えるようなものがある。

図書館利用を促すハンドブック、利用ガイドの類では、マナーやリテラシーを具体的に「ルールとして示す」「手順として示す」、調べ学習の段階では百科事典などの資料から、段階を追って資料利用を説明するという特徴がある。マナーやルールをお話で伝える絵本より、表現が具体的になっている。

2.3.3 お話、語りかけ、詩の表現

かしまった説明文でない表現で伝えるものもあった。シリーズに含まれるもののいくつかにはキャラクターが登場し、お話形式で図書館の様子が表現されていた(表1の1-3、15、16など)。

『わくわく図書館』のシリーズ第1巻は、そのほかの巻とは趣を異にし、抒情的な散文詩で表現される。判型はB5とやや小さいのであるが、小人数であれば充分読み聞かせに対応できる。内容は「わたし」が本の世界を旅し、楽しみ、夢見る、学ぶ等というもので、世界の町や日本の伝統衣装、工場地帯など素朴な絵に3行ずつ散文詩が添えられている。図書館への導入としてまず、本の魅力を伝えるものである。

『ほんはまっています のぞんでいます』は、“あなたはほんが すきですか”という呼びかけからはじまる。この本は復刊ドットコムから再販されてもいるかこさとしの「しゃかいの本」で、長く親しまれている。すべてひらがなで表現されており、本屋ではなく、無料でだれでも本が読める場所として図書館を紹介し、“ほんがよみたくなったら、どうしたらいいか、どこへいけばいいか もう すっかり おはなししてきました”と結んでいる。そして、そのあとがきで、子どもは年齢が進むと本を読まなくなること、大人は子どもにだけ本を読めとすすめること、文明国の中で日本の図書館状況は恥ずかしいもので、もっと努力が必要であることを指摘している。

「知識の本」で説明するタイプのものは、比較的小学中学年以上を対象とするものが多い。それは調べ学習を意識したものである。低学年以下の子どもに対して、ひらがなや絵を多用し、少しずつ図書館を説明するものはあまりない。より噛み砕いた表現で伝えるものとして、表1の4、5の資料について、これに内容的にはほぼ該当するものとして、赤木はもう少し噛み砕いた内容を別途紙芝で表現している^{注1)}。これらのことを鑑みると低学年や未就学の子どもは、図書館に関する親しみや知識を得る機会として、先行研究で紹介してきたようなストーリーを楽しむお話の絵本の中で「子どもの生活の中の図書館」や図書館マナーやリテラシーに触れ、「図書館に関する知識の本」や「図書館を活用するための本」へ滑らかに接続するのが適切だと考える。

3. 外国の資料を参考にした提案

図書館に関する知識、図書館の活用法の子ども向けの資料となると、調べ学習を意識した小学中学年以上を対象としたものが多い。学習という文脈でなく、低学年、未就学の子どもでも楽しめるようなものとなると、お話の絵本が適当と考えられる。しかし、これまでの筆者の調査⁷⁾からみて、マナーやリテラシーなど図書館の利用を平易に伝えるものとなると、翻訳絵本が多い傾向にある。日本語の原作でも、知識の本の前段階のような、そういうものが必要ではないかと考える。例えば、デューイ十進分類法(DDC)を絵本で、お話で伝えるものがあるが¹¹⁾分類体系が異なるのでそのまま翻訳しても利用できないが、日本十進分類法を絵本で伝えるものがあればと考える。本論で紹介してきたものは、「説明」であり、「お話で親しむ」ようにはなっていない。

より身近に、楽しんで親しむ外国の絵本の中には低学年を対象として、図書館リテラシーを体感的に覚え親しむことを目的としたものがある。先行研究⁷⁾で言及しているが、韻を踏んだ繰り返し、言葉遊びのような言い回し、童謡のように節のついているものや歌になっているものがある^{12) 13)}。「歌って覚える」をコンセプトに初期学習用のシリーズ*Cantata Learning Songs and Books*¹³⁾では、楽譜とCDがついている。実際に絵本の本文がそのまま歌詞として歌えるようになっており、現在*Find a Book, Fiction or Nonfiction?*、*Manners in the Library*、*Staying Safe Online*の全4巻からなる。それぞれ多くない語数と韻を踏んだ表現によって展開される。図書館には何があるのか、基礎的なマナー、DDCと著者名・タイトル検索、情報機器の利用、オンラインツールの安全な利用まで段階的に編成され、1冊の内容が、一曲3分ほどの歌になっている。歌に合わせて手拍子がついており、手拍子も変化していくので、手遊びの歌としても楽しめる。図書館に関する知識、リテラシーやマナーを、楽しく身につけるには、こういった資料がぜひ欲しいところである。

4. まとめ

学校図書館には格差があることを前述したが、ゼミ学生に対する聞き取りの中でもそのことは明白で、調査と発表、レポート課題を課すと、調査作業のスタートラインの差に愕然とする。小中学校でガイダンス、オリエンテーション、そして調べ学習と段階を踏んできた学生と、本の貸借の仕方“だけ”を習ったと記憶するもののなんと差の大きいことか。赤木が紙芝居シリーズ^{註1)}に、“建てはじめてから、のこぎりの使い方の練習を始めたら、家がなかなか立たないように”調べながら本や図書館の使い方を学んでもうまくいかない、そのために“まず道具の使い方を先に知ること”が必要であると説き、“そもそも図書館というのはなにかがわからないと図書館について考えることができない”という言葉を寄せている。ある日突然に図書館を使いこなすことは難しい。そして課題解決は生活のどのシチュエーションでも起こりうるものである。したがって、多くの子どもたちが学校図書館の文脈だけでなく、学校の学習を意識しないところでも、生活の一部として、図書館利用の習慣を身につけていくことが望ましい。図書館利用教育は、学校の勉強のためだけのものではなく、図書館を利用する力=生きる力を身につけるものである。身近な図書館へのアクセス事情や、図書館の充実度には確かに格差があるが、知識の本、絵本、ワークブック等の多様な資料群を利用することは、楽しみながら、あるいは知的好奇心に刺激をうけながら、図書館を知り図書館に親しむ一助となる。

また、子どもが図書館を知る機会は、全国で広がっている子ども司書の活動^{註2)}など多様化している。図書館に関する絵本や、知識の本、調べ学習の補助教材など資料からも多くの情報を得ることができる。さまざまな機会や情報のチャネルを経て、楽しみや自分の興味、知的ニーズを満たす行動の中で、図書館に親しみ、図書館を知り、使いこなすようになれば、生活の要素に埋め込まれた存在となり、地下鉄に乗り、バスによって目的地にたどり着くように、情報を探索したり、楽しみやくつろぎの場所へ向かう、その場所の一つになるであろう。

文献リスト

- 1) Wiseman, Frederick. *Ex Libris: The New York Public Library* 205分2017
「ニューヨーク公共図書館：エクス・リブリス」2019年5月 日本公開
- 2) 山本みづほ. 蛾のおっさんと知る衝撃の学校図書館格差：公教育の実情をのぞいてみませんか. 郵研社, 2019年, 216p.
- 3) 学校図書館のハテナ？ (2) 自治体格差 司書不在校 西日本新聞 2019 2月12日

<https://www.nishinippon.co.jp/item/n/486170/>

- 4) 日本図書館協会. ディスカバー 2004: 図書館をもっと身近に暮らしの中に. 日本図書館協会, 2004, 128p. シンポジウム開催は2004年5月29日 明治大学カカデミーコモン アカデミーホールにて開催
- 5) 文部科学省 図書館実践事例集 ～人・まち・社会を育む情報拠点を目指して～
http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/tosho/jirei/index.htm (2019年12月3日確認)
- 6) 学校図書館法の改正 学校司書に関すること (第6条関係)
学校図書館法の一部を改正する法律の公布について
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/dokusho/link/1360206.htm
- 7) 村主千賀. 絵本の中の図書館リテラシーとマナー: 絵本に描かれる図書館 2. 東海学園大学研究紀要, 23号, p.107-120, 2018. 尚、図書館絵本ならびに子ども向け図書館関連資料の最新一覧は東海学園大学研究紀要, 第24号 (2020年) に投稿中の研究ノートに掲載。
- 8) 「絵探し」デジタル大辞泉 JapanKnowledge <https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=2001001845300>
- 9) 高橋元夫. 図書館クイズ: コピーしてすぐ使える パート1. 新樹社, 1996, 96p.
高橋元夫. 図書館クイズ: コピーしてすぐ使える パート2. 新樹社 1996. 96p.
- 10) 赤木かん子. 調べ学習紙芝居シリーズ. 埼玉福祉紹介商品事業部 2011～2013年.
調べ学習のはじまる前 (3年生) までに、図書館を知るための補助教材として位置づけられる。「定義ってなあに」「図書館ってなあに」「分類ってなあに」「図書館へようこそ」「百科事典のひきかた」「本ってどうやってつかうの: 目次と索引」「本ってどうやってできたの 上・下」など。1年生でも理解可能なように作られている。概ね構成内容は『調べ学習基礎の基礎』『本で調べてほうこくしよう』と同じ。紙芝居版は、語りかけでお話して伝えるものである。図書版はワークになっている。
- 11) Donovan, Sandra, Haake, Martin. Bob the Alien Discovers the Dewey Decimal System. Picture Window Books, 2010, 24p.
- 12) Buzzeo, Toni, Westcott, Nadine Bernard. The Library Doors. Upstart Books, 2008,
- 13) Miller, Shannon, Durst, Kathryn, Arrow, Emily. Cantata Learning, 2018. 各巻の書名は以下の通り
Find a Book, Fiction or Nonfiction? Fiction or Nonfiction?, Manners in the Library, Staying Safe Online.

注1) こども司書とは: 本の分類や図書館の役割についての座学と、絵本の読み聞かせ、レファレンス体験、ブックトーク、オリジナル絵本の制作など様々な体験を通して司書の仕事をまなぶ。そのことから、図書館にしたしみ、図書館リテラシーをはぐくむだけでなく、家庭や学校、地域で読書活動のリーダー的な役割を担うことをめざす。全国に広がっている活動で、近隣では一宮市、犬山市、岐阜市などで行われている。全国の活動については、家読推進プロジェクト公式HP (<http://uchidoku.com/htdocs/>) に情報が掲載されている。

	タイトル (シリーズ名)	著者・監修・編者・翻訳者	絵・写真	資料の概要	出版年	出版者
19	とよかんへいこ	斉藤洋	田中六次	迷路、クイズ、さがし絵、間違い探しなど、遊びながら図書館を知る絵本。図書館内のレイアウト、コーナー、イベント、併設施設などを知ることができる。「とよかん」が主眼(図書館探検・生活)と題され韓国でも出版されている。	2015	調製社
20	ハルモニの図書館さんぽ(アジアの道案内:韓国)	ソン・ヨンスク・みせけい	ソン・ヨンスク・みせけい	韓国の図書館を紹介する本。写真と文、子どものための図書館、公共図書館、奇跡の図書館について紹介し、変わった建物や、歴史的建造物の図書館への訪問物なども紹介。図書館の活動にも触れている。	2018	至川文学出版
21	図書館のみみつ	高田高史	写真と絵	本に関する知識の本。図書館がどのような役割を知り、活用を目指す。小・中・高・大・社会・大学・図書館の歴史や国立図書館などの種類の紹介、分類と分類記号、配架と図書ラベルの関係、本の採集のコツ、図書館のイベント、図書館利用のメニュー、司書の仕事などを知ることができる。	2016	PHP研究所
22	アグライ・ラーニング 調べ学習編:テーマの決め方から情報のとめ方まで	西岡加名恵(監修)		ハンドブック。情報収集の手引き。情報の集め方のところで、図書館を紹介。詳しい調べ方は別のシリーズとなっている。	2017	PHP
23	パブリックなどを使って調べよう (情報名人になろう 2)	稲田龍也(編)	安土じょう	取付の下調べを図書室(学校)でする。図書館の利用について解説する	2011	汐文社
24	図書館ラグダがやってくる	マーグレット・ブーラー(著) 芥原規(訳)		世界の図書館(移動図書館)について、著者が世界中の図書館に手紙を出し、世界中の移動図書館についてレポートしてもらったものをまとめたもの。写真と文章からなる。高学年~	2010	さくら舎
25	本と図書館の歴史:ラグダの移動図書館から電子書籍まで	モーリー・サラフ 宮本陽子/小各正子(訳)	ビル・スレイヴン	本と図書館の歴史について、イラストと文章でまとめてある。内容はかなり詳しく重厚。漢字も多いので高学年向き。読者メニューでの評判もよい。B5版。知識の本	2010	西村書店
26	見つけたおとよかんへいこ えきほか: みんながつかうばしょ(さがししてみよう! まちたんけん 2)	森田和良/山下真一(監修)		便箋、カイロブック、クイズ形式でまちたんけんをする。ページをめくって答えを確認する形式。小学二年向け生活科の本。写真が豊富で自分の町を知るツールブックを体験するように編集されている。イラストによるキャラクターが挿絵を進行する。町、社会の構成要素のツールとして図書館をとり入れることができる。	2018	ポプラ社
27	みんなまつてるよ! いろいろがっこうとよかん(1)	よこやますみよ(監修)	青山ゆい	クワガタ変態、変態紙の裏にあり、館内図、校内図、図書館のやそく(利用ルール)をそれぞれ貼り付けるようにしている。この裏には、タイトルがつけられている。学校図書館が舞台の絵本。	2018	少年写真新聞社
28	本の声をおきました! いこようがっこうとよかん(2)	よこやますみよ(監修)	ささきみお	学校司書(教諭)の目を通して、擬人化された本が語るクワガタ一仕立ての絵本。本の余話から、司書に本たちの思いを託す形で、資料利用のメニューを促す。	2019	少年写真新聞社
29	とよかん町のバス(いこようがっこうとよかん(3))	よこやますみよ(監修)	イクラケマコト	NDC(日本十進分類法)についての解説。各区分を町内にみだてて、バスでめぐるといって形式で解説している。ゲーム感覚で10の分類が理解できるようになっている。さがし絵の本。	2019	少年写真新聞社
30	知りたい! 現在・過去・未来 (シリーズ) 変わる! 学校図書館1	門内雄行(監修) 稲葉茂樹(著)		日本の学校図書館の歴史や役割の変化	2018	ミネルヴァ書房
31	知りたい! 全国のおもしろ学校図書館シリーズ (変わる! 学校図書館) 2	門内雄行(監修) 稲葉茂樹(著)		実際の学校図書館の仕組みや活用例	2018	ミネルヴァ書房
32	最先端の学校図書館(クワ)とは (シリーズ) 変わる! 学校図書館) 3	門内雄行(監修) 稲葉茂樹(著)		これからの学校図書館に期待される機能とツールに関するレポート	2018	ミネルヴァ書房
33	調べよう! 文字のはじまりと本の歴史 (本のことかわかる本 1)	龍勢仁(監修) 龍勢茂樹(文)		写真と文から構成される。帝国図書館(上野)の紹介がされている。	2015	ミネルヴァ書房
34	知っているようで知らない本 (本のことかわかる本 2)	龍勢仁(監修) 龍勢茂樹(文)		原題日本の本の構造やページの構成、本のデザイン、珍しい本、本に関する用語の解説、日本の独自の出版文化としてマンガの紹介など	2015	ミネルヴァ書房
35	本が読者にどくまで (本のことかわかる本 3)	龍勢仁(監修) 龍勢茂樹(文)		本の制作工程と、流通について。ただし、書店まで、図書館には言及せず。	2015	ミネルヴァ書房
36	本のねま! 5000年	辻村益朗		写真と絵による便箋。小学校中級以上を対象としている。	1989	福音館書店
37	図書館へいこ! 図書館クイズ1 知識と情報の宝庫=図書館活用術	五十嵐絹子(編)		3年生~6年生までを対象とし、各学年ごとに10問ずつ。クイズ形式はB5コピー可能なサイズで装幀されている。指導者へのアドバイスがある。職員用の図書館だより、イベントのお知らせのフォームもある。子どもが使うのではなく、指導者用が利用されるもの	2007	国土社
38	図書館へいこ! 図書館クイズ2 魅力的な図書館委員会の活動 図書館行事のアイデア集	五十嵐絹子(編)		小学低学年用~中学生用。コピーして使えるテンプレートあり。イベントを盛り上げる図書館のアイデア集。図書委員会の活動に役立ちアイデアが盛り込まれ、劇仕立てのクイズ、クイズのクイズ、辞書引き大会、読書祭りなどのイベントや集金などに用いるグッズ、ポスター、チラシ等のテンプレートなど。指導者、図書委員などが利用するもの	2011	国土社

注:同一シリーズで各巻の著者が異なる場合は1巻の著者名を記列基準としてレポートした。

表1 図書館と本を知る本のリスト

	タイトル (シリーズ名)	著者・監修・編 者・翻訳者	絵・写真	資料の概要	出版年	出版者
1	図書館ってどんなところなの(図書館へいこう1)	赤木かん子	すがわらけいこ	お話形式。本を広い図書館に届けた際に司書に図書館を案内してもらう。	2007	ポプラ社
2	ほんはどうやって探したらいいの(図書館へいこう2)	赤木かん子	すがわらけいこ	お話形式。鈴虫の育て方という課題解決のために図書館へいき、お話形式。行車の車前学習(宿題)の課題解決、テーマ決めのための絞り込み、キーワードの具つけ方などを解説。	2007	ポプラ社
3	テーマってどうやって決めるの(図書館へいこう3)	赤木かん子	すがわらけいこ	テーマを決める方法を紹介。テーマを決める方法を紹介。テーマを決める方法を紹介。	2007	ポプラ社
4	ほんで調べてみよう(図書館へいこう4)	赤木かん子	mitty	テーマを決める方法を紹介。テーマを決める方法を紹介。テーマを決める方法を紹介。	2011	ポプラ社
5	調べ学習基礎の基礎[改訂版]:だれでもできる赤木かん子の魔法の図書館学	赤木かん子		調べ学習の方法を紹介。調べ学習の方法を紹介。調べ学習の方法を紹介。	2011	ポプラ社
6	図書館のはじまり・うりかわり(図書館のすべてがわかる本 1)	秋田晋代美	写真と絵	図書館の歴史、役割、サービス、利用方法、資料の種類、蔵書の整理方法、図書館の未来などについて詳しく紹介。また、図書館の役割、サービス、利用方法、資料の種類、蔵書の整理方法、図書館の未来などについて詳しく紹介。	2012	岩崎書店
7	図書館の役割を考えてみよう(図書館のすべてがわかる本 2)	秋田晋代美	写真と絵	図書館の役割、サービス、利用方法、資料の種類、蔵書の整理方法、図書館の未来などについて詳しく紹介。また、図書館の役割、サービス、利用方法、資料の種類、蔵書の整理方法、図書館の未来などについて詳しく紹介。	2012	岩崎書店
8	日本と世界の図書館を見てみよう(図書館のすべてがわかる本 3)	秋田晋代美	写真と絵	日本と世界の図書館の役割、サービス、利用方法、資料の種類、蔵書の整理方法、図書館の未来などについて詳しく紹介。また、図書館の役割、サービス、利用方法、資料の種類、蔵書の整理方法、図書館の未来などについて詳しく紹介。	2013	岩崎書店
9	図書館をもっと活用しよう(図書館のすべてがわかる本 4)	秋田晋代美	写真と絵	図書館の役割、サービス、利用方法、資料の種類、蔵書の整理方法、図書館の未来などについて詳しく紹介。また、図書館の役割、サービス、利用方法、資料の種類、蔵書の整理方法、図書館の未来などについて詳しく紹介。	2013	岩崎書店
10	図書館(校外学習 くらしまもも・くらしまささる20)	秋山 暁	かどたりつこ	図書館の役割、サービス、利用方法、資料の種類、蔵書の整理方法、図書館の未来などについて詳しく紹介。また、図書館の役割、サービス、利用方法、資料の種類、蔵書の整理方法、図書館の未来などについて詳しく紹介。	2001	岩崎書店
11	本はこうしてつくられる	アリキ 松岡亨子(訳)	アリキ Brandenberg, Aiki	本の製本方法、印刷、装丁、紙の種類、色、匂いなどについて詳しく紹介。また、本の製本方法、印刷、装丁、紙の種類、色、匂いなどについて詳しく紹介。	1991	日本エディターズグループ出版
12	ほんはまっていますのそんでいいます	かこさとし		本の製本方法、印刷、装丁、紙の種類、色、匂いなどについて詳しく紹介。また、本の製本方法、印刷、装丁、紙の種類、色、匂いなどについて詳しく紹介。	2017 1985	宝島社 童心社
13	本のせかいへ(わくわく図書館 1)	笠原良朗	太田大八	本の製本方法、印刷、装丁、紙の種類、色、匂いなどについて詳しく紹介。また、本の製本方法、印刷、装丁、紙の種類、色、匂いなどについて詳しく紹介。	2010	アリス館
14	図書館ってどんなところ(わくわく図書館 2)	紺野順子	こばようこ	本の製本方法、印刷、装丁、紙の種類、色、匂いなどについて詳しく紹介。また、本の製本方法、印刷、装丁、紙の種類、色、匂いなどについて詳しく紹介。	2010	アリス館
15	図書館で調べてみよう(わくわく図書館3)	紺野順子	こばようこ	本の製本方法、印刷、装丁、紙の種類、色、匂いなどについて詳しく紹介。また、本の製本方法、印刷、装丁、紙の種類、色、匂いなどについて詳しく紹介。	2010	アリス館
16	夢の図書館 (わくわく図書館 4)	笠原良朗	いとうみき	本の製本方法、印刷、装丁、紙の種類、色、匂いなどについて詳しく紹介。また、本の製本方法、印刷、装丁、紙の種類、色、匂いなどについて詳しく紹介。	2010	アリス館
17	図書館ってすごいな(わくわく図書館 5)	笠原良朗・紺野順子	写真と絵	本の製本方法、印刷、装丁、紙の種類、色、匂いなどについて詳しく紹介。また、本の製本方法、印刷、装丁、紙の種類、色、匂いなどについて詳しく紹介。	2010	アリス館
18	図書館の達人!本の探し方がわかる事典:調べるのがおもしろくなる	金中利和	写真・国際こも図書館	本の製本方法、印刷、装丁、紙の種類、色、匂いなどについて詳しく紹介。また、本の製本方法、印刷、装丁、紙の種類、色、匂いなどについて詳しく紹介。	2007	PHP